

(寄稿)

NOMURA

がん患者さんを支える口腔のケア

国立がん研究センターでは、化学療法や放射線療法などを行っている患者さんや、周術期の患者さんに対し、口腔のケアを組み込んだ医療を提供している。

がん治療が強力に、かつ徹底的になっている今日では、これに伴う副作用や合併症が深刻になっている。米国では、がん治療の際の合併症の予防を目的とした口腔のケアは一般的になっているが、日本でも、ようやくその取り組みが注目されつつある。

また、地域の歯科医院と連携した“地域でがん患者を支える”仕組みづくりにも取り組んでいる。昨今のがん治療は入院でなく、外来通院で治療を行うケースも多くなっており、歯科医院に期待される役割も大きい。実際、単独の病院で完結するには、体制面なども含めて困難なことも多いと予想される。

本稿では、がん治療における口腔のケアとその普及活動に取り組まれている国立がん研究センター中央病院 歯科医長 上野先生に寄稿いただいた。がん治療における口腔のケアの意義や合併症から実践的な活動内容を紹介いただき、さらにがん医科歯科連携の取り組みや行政的な課題にも触れていただいた。

昨今、口腔のケアの重要性は、介護分野でもしばしば話題として取り上げられるが、体力や免疫力の衰えが、口腔からの感染症につながるという点では、高齢者にも当てはまる。そして食べられないという状態は、負のスパイラルを招くといわれており、それを阻止するのが口腔のケアである。

本稿を通じて、改めてより幅広い方々に口腔のケアの重要性について考える機会になれば幸である。

(市川)

2014年2月21日

Healthcare note

(No. 14-02)

寄稿者名：
国立がん研究センター
中央病院
歯科医長
上野 尚雄

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
市川 剛志

野村證券株式会社
金融公共公益法人部